

平成28年度 農林水産情報交流ネットワーク事業 地方調査 「食文化の継承意識」に関するアンケート

平成25年12月にユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化」が登録されました。しかし、食生活の多様化に伴い、古くからの伝統的な食文化等、国民の食生活に関する意識が希薄化し、失われていくことが危惧されています。

このような状況を踏まえ、本アンケートは、家庭や地域での食事スタイルの状況、食文化の継承の現状や継承に対する意識について、北陸管内の農林水産情報交流ネットワーク事業のモニター（293人）を対象に実施したものであり、266人から回答を得た結果である。

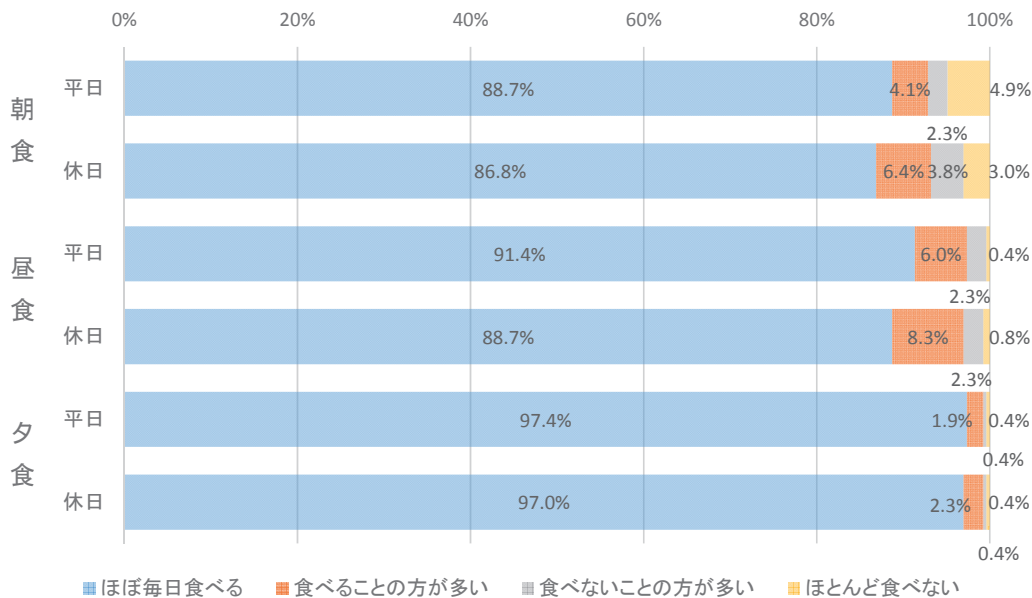
【アンケート結果の概要】

1 ふだんの食事

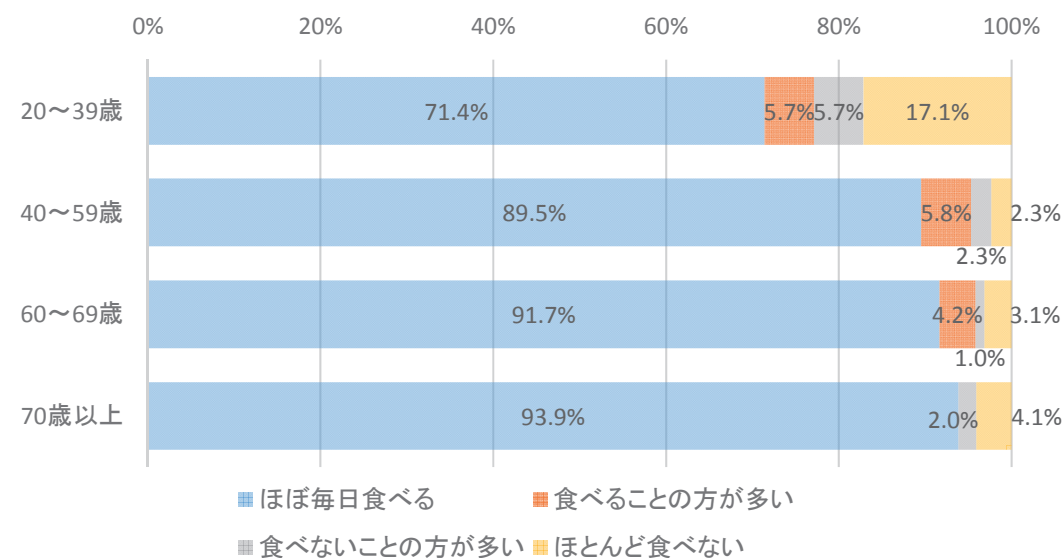
(1) 食事の頻度

ふだんの朝食、昼食、夕食をどのくらいの頻度で食べているかとの質問に対して、平日の朝食をほとんど食べないと回答した割合は4.9%であった。これを年齢別でみると20～39歳では17.1%と高くなった。

食事の頻度(北陸)



年齢別平日の朝食の頻度



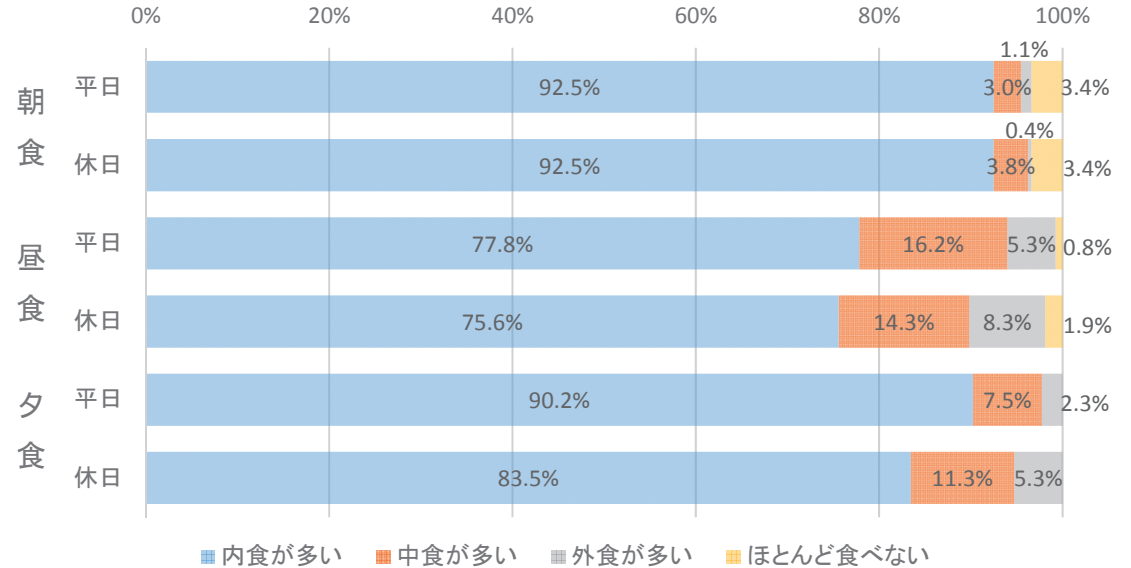
(2) 朝食・昼食・夕食ごとの食事の形態

朝食では、平日も休日も内食が多いと回答した割合は92.5%であった。

昼食では、中食が多いと回答した割合は平日で16.2%、休日で14.3%であった。また、休日の外食が多いと回答した割合は8.3%であった。

夕食では、中食が多いと回答した割合は平日で7.5%、休日で11.3%であった。また、休日の外食が多いと回答した割合は5.3%であった。

内食、中食、外食別(北陸)

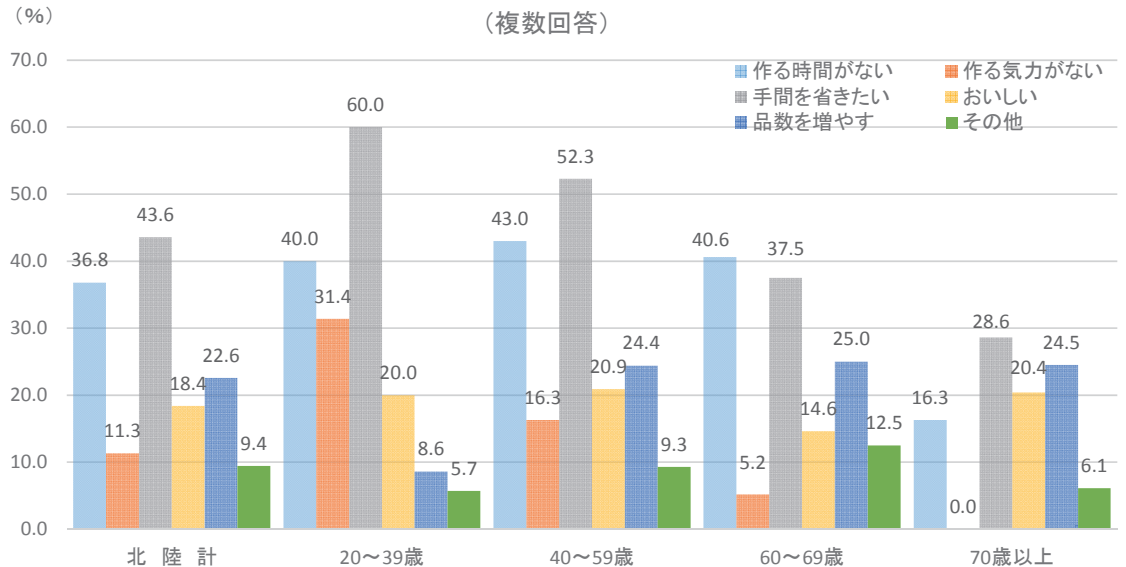


(3) 中食を利用する理由

中食を利用する理由は「手間を省きたい」と回答した割合が43.6%で最も多く、次に「作る時間がない」が36.8%、「品数を増やす」が22.6%の順であった。

これを年齢別にみると、20~39歳では「手間を省きたい」60.0%、「作る時間がない」40.0%、次いで「作る気力がない」と回答した割合は31.4%となった。また、40歳以上の各年齢階層では「品数を増やす」と回答した割合は25%前後であった。

中食を利用する理由(年齢別)

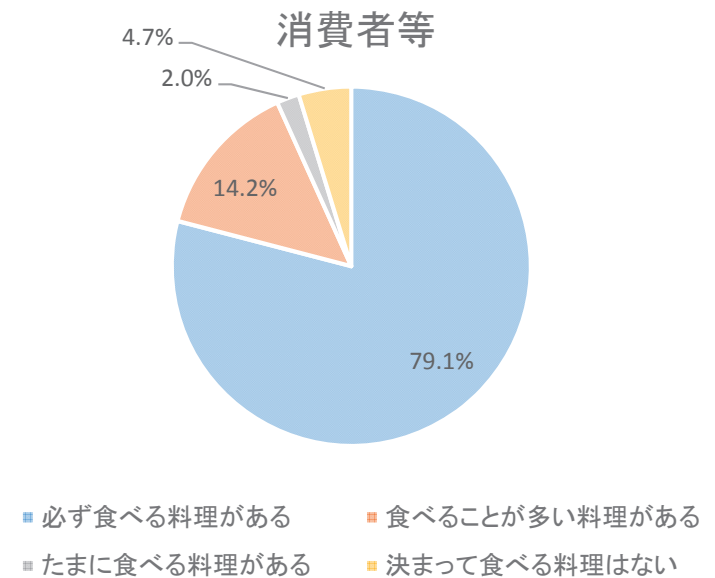
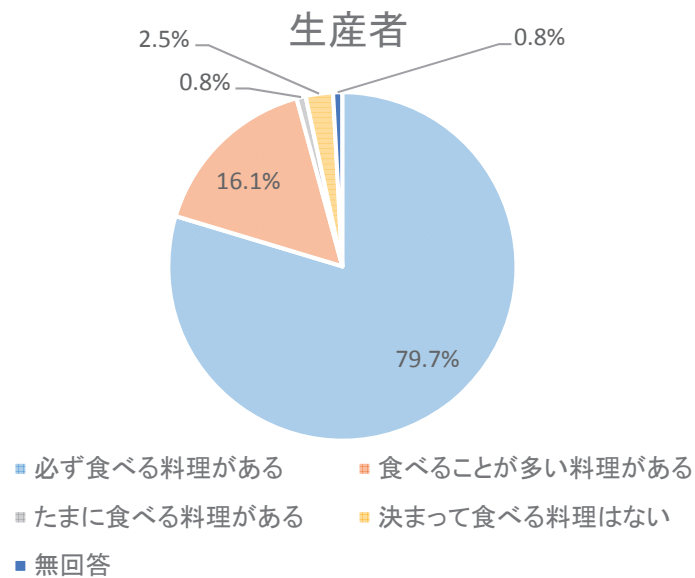


2 ハレの日の食事（季節の行事、特別な日）

季節の行事や特別な日に、その行事に関連した料理を食べているかとの質問に対して、正月は約8割、大晦日は約7割が「必ず食べる料理がある」と回答した。

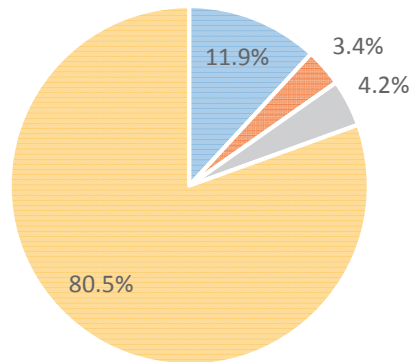
また、お彼岸、お盆、祭り、冬至といった昔からの行事については、「必ず食べる料理がある」と回答した割合は、生産者が消費者等（流通加工モニターと消費者モニター）より高くなった。一方、節分、クリスマス、家族の誕生日といった比較的、新しい行事では、消費者の割合が高くなった。節分については「恵方巻き（太巻き）」を食べるとの回答が高くなった。

（1）正月 《食べる料理：雑煮、おせち料理、黒豆》



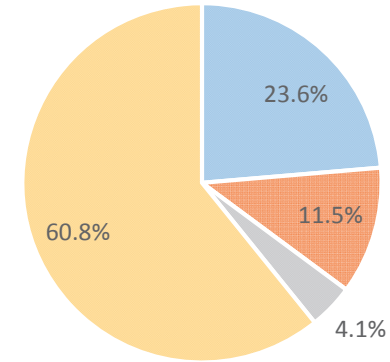
(2) 節分 《食べる料理：恵方巻き（太巻き）、大豆》

生産者



- 必ず食べる料理がある
- 食べることが多い料理がある
- たまに食べる料理がある
- 決まって食べる料理はない

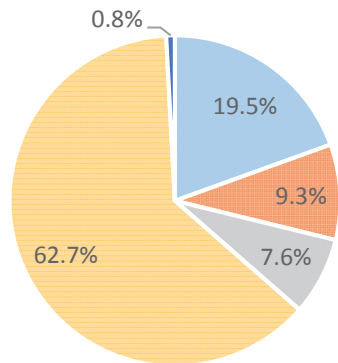
消費者等



- 必ず食べる料理がある
- 食べることが多い料理がある
- たまに食べる料理がある
- 決まって食べる料理はない

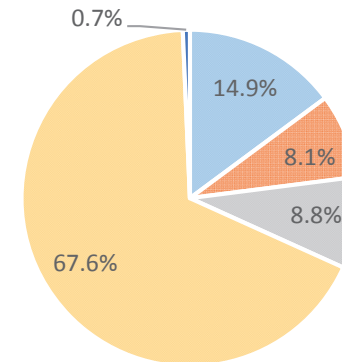
(3) お彼岸 《食べる料理：おはぎ、赤飯》

生産者



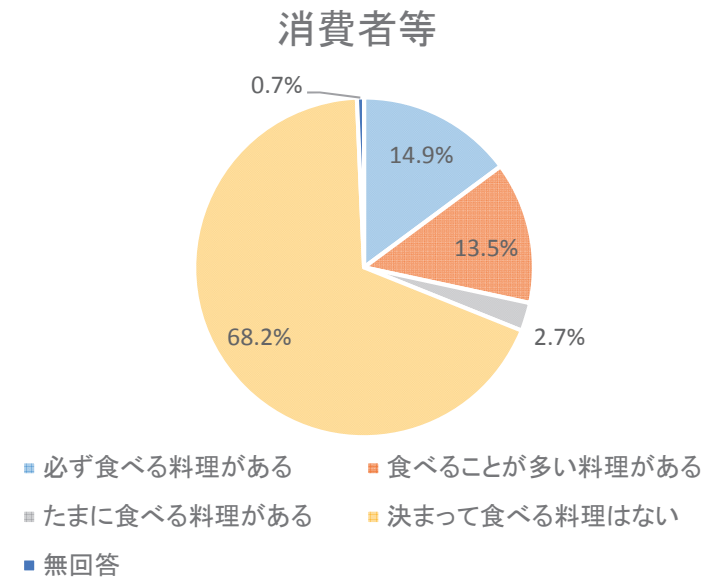
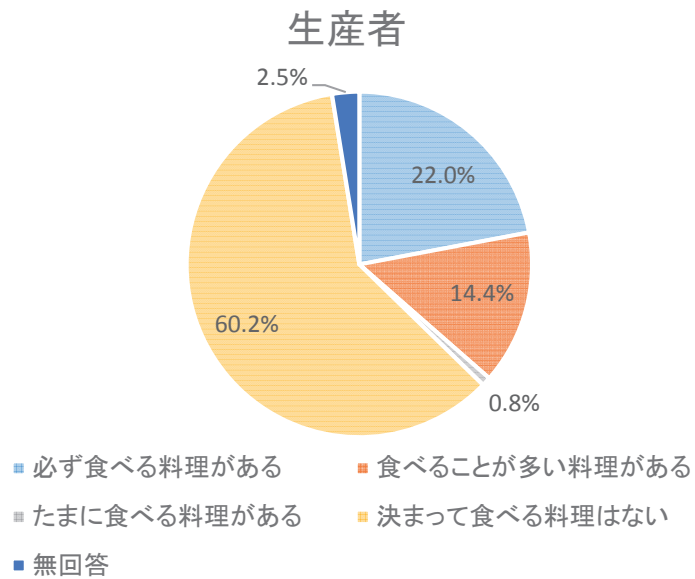
- 必ず食べる料理がある
- 食べることが多い料理がある
- たまに食べる料理がある
- 決まって食べる料理はない
- 無回答

消費者等

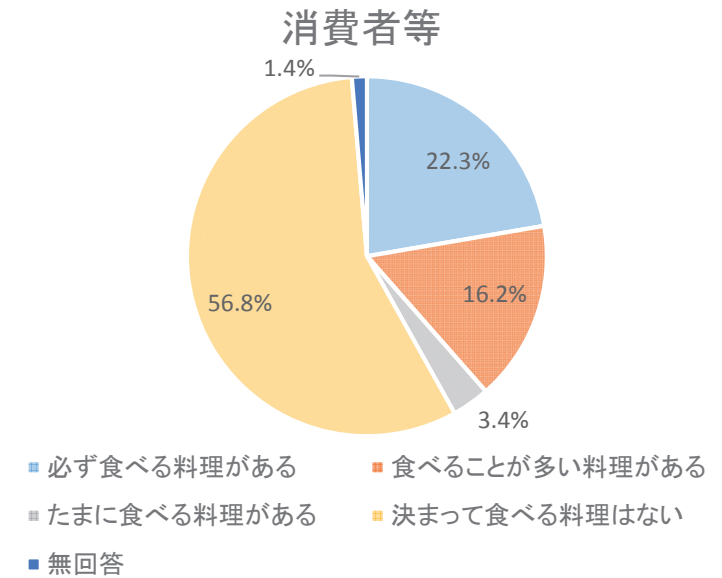
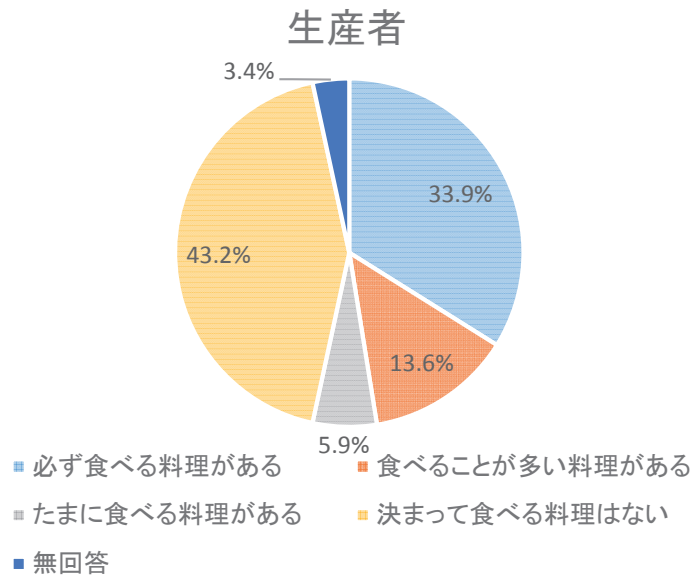


- 必ず食べる料理がある
- 食べることが多い料理がある
- たまに食べる料理がある
- 決まって食べる料理はない
- 無回答

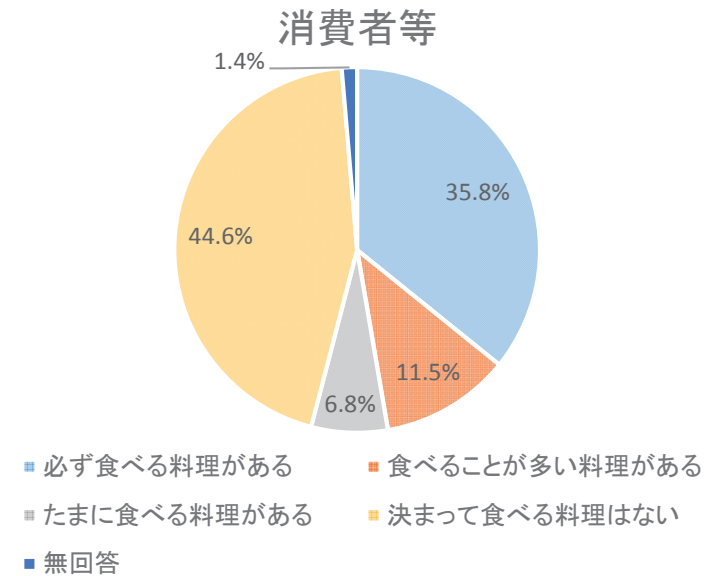
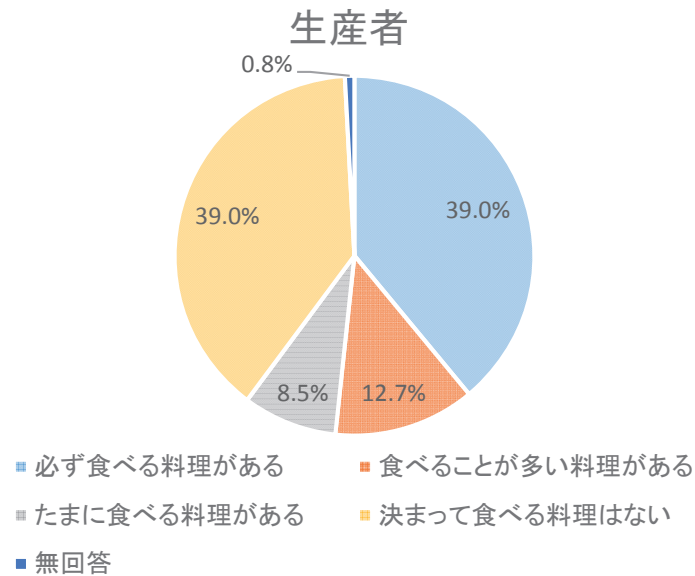
(4) お盆 《食べる料理：すし、そうめん、刺身》



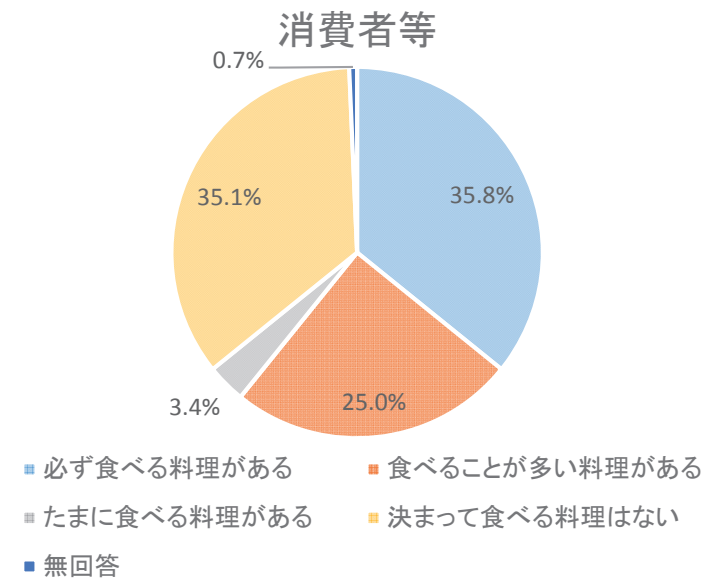
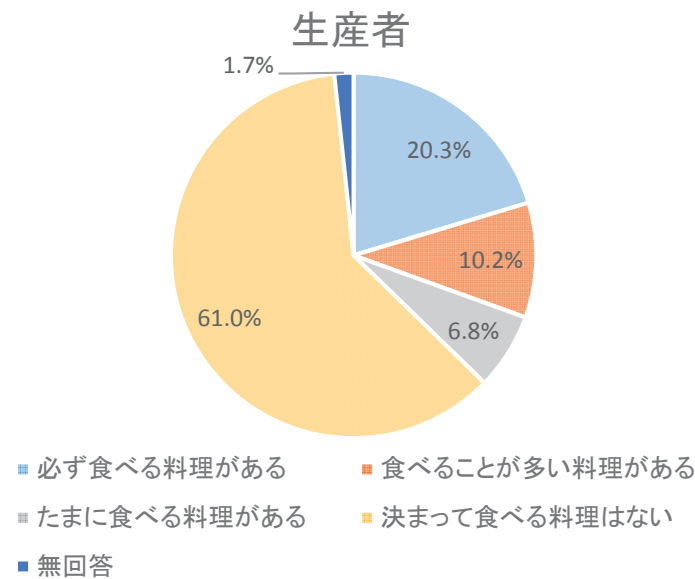
(5) 祭り 《食べる料理：赤飯、すし（五目、押し寿司含む）、煮しめ》



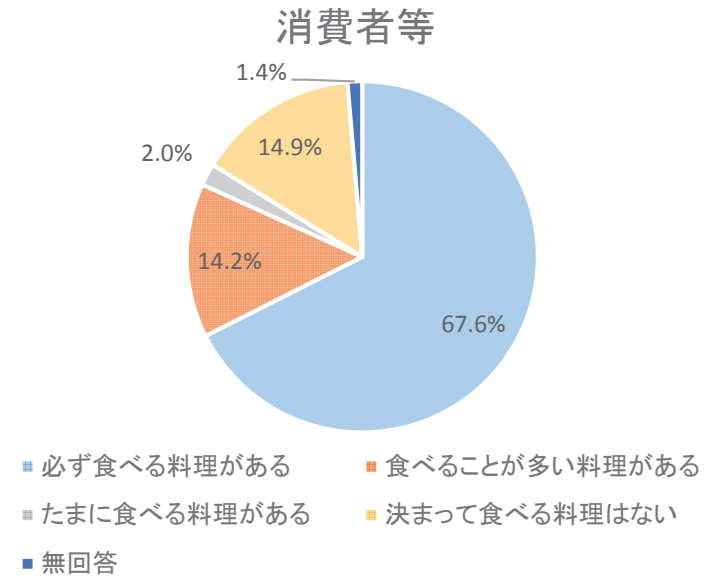
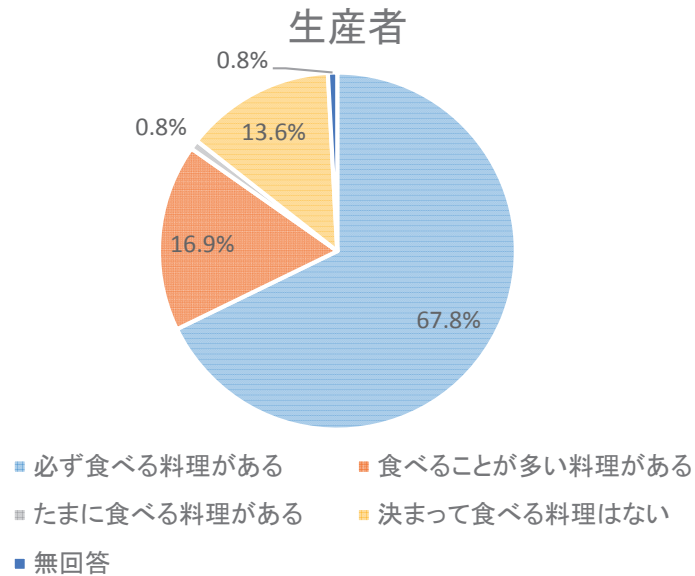
(6) 冬至 《食べる料理：かぼちゃ煮物、かぼちゃ料理》



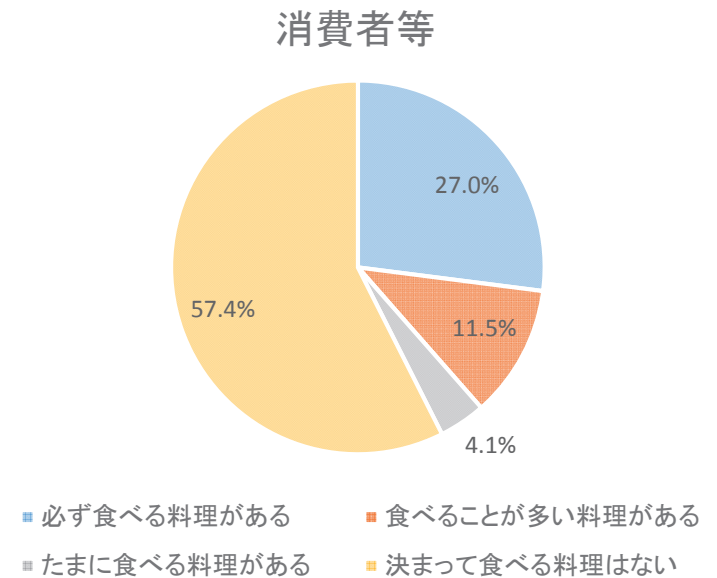
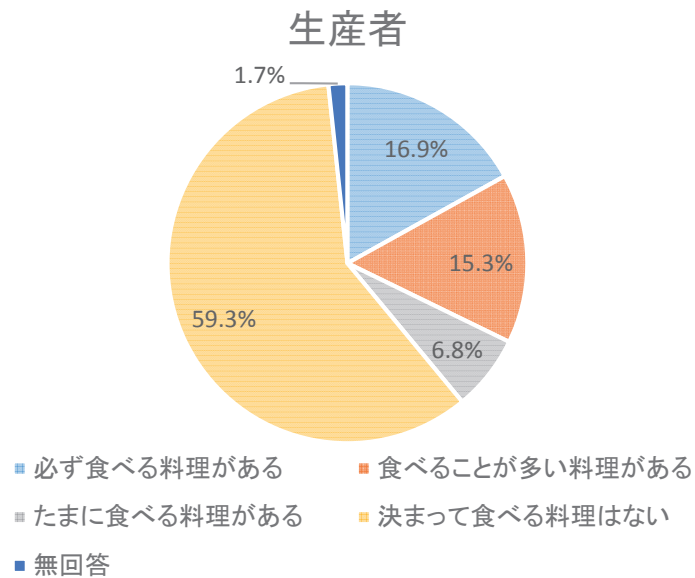
(7) クリスマス 《食べる料理：鶏料理》



(8) 大晦日 《食べる料理：そば、おせち料理、鮭》



(9) 家族の誕生日 《食べる料理：ケーキ、すし、赤飯》



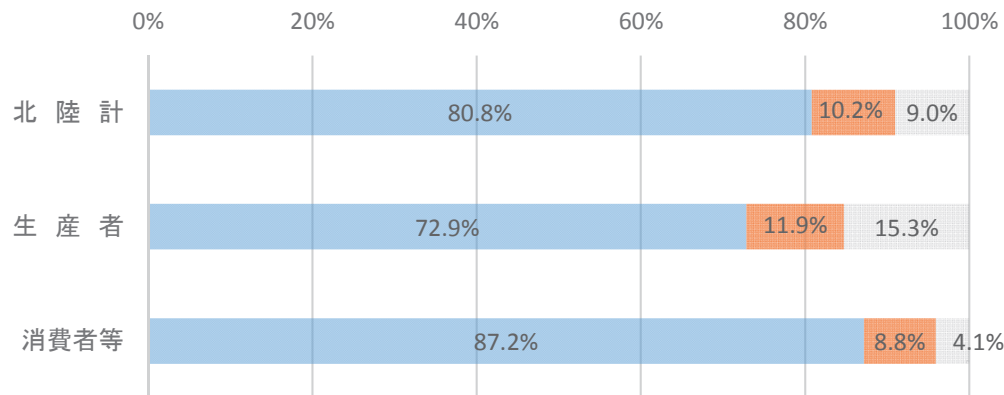
3 「和食文化」の伝承

(1) ハレの日の料理の大切さ

季節の行事などの特別料理（ハレの日の料理）について、「受け継がれていくべきである」と回答した割合が80.8%と最も高く、次いで「受け継がれていくべきであると思わない」が10.2%、「無回答」が9.0%であった。

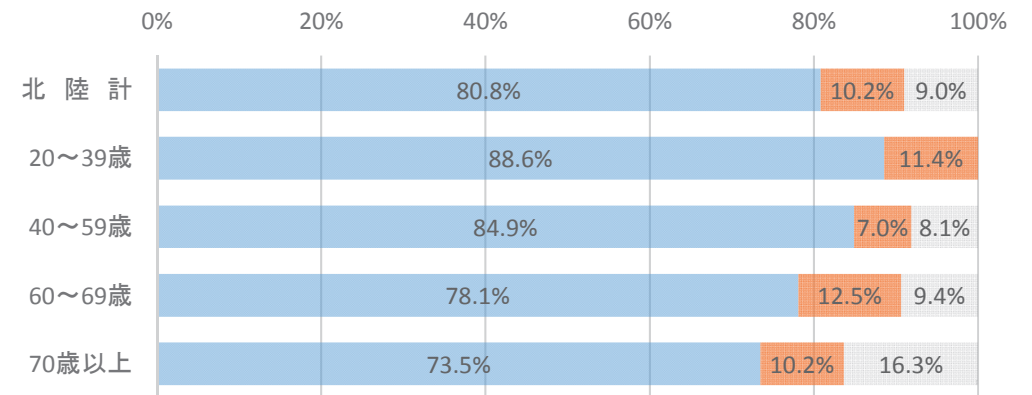
モニター別でも同様の結果となったが、「受け継がれていくべきである」と回答した割合が、消費者等で高く、生産者で低くなった。また、年齢別でみると、若い年齢階層で「受け継がれていくべきである」と回答した割合が高くなった。

特別料理の大切さ(モニター別)



■ 受け継がれていくべきであると思う ■ 受け継がれていくべきであると思わない
■ 無回答

特別料理の大切さ(年齢別)



■ 受け継がれていくべきであると思う ■ 受け継がれていくべきであると思わない
■ 無回答

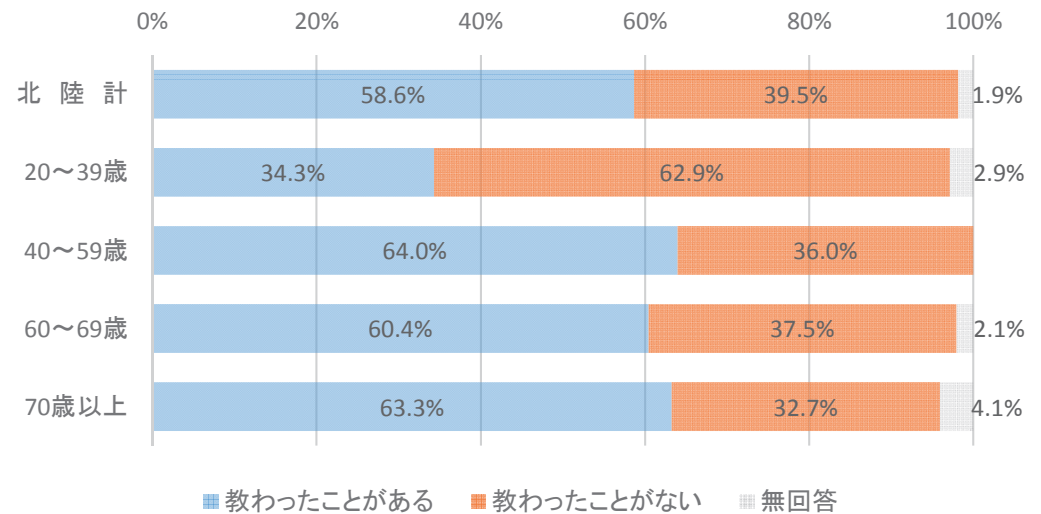
(2) ハレの日の料理の伝承等

ア ハレの日の料理を教わったり受け継いだことの有無

季節の行事などの特別料理を教わったり受け継いだことについては、「教わったことがある」と回答した割合が北陸で58.6%であった。

また、年齢別にみると40歳以上の階層で約6割が「教わったことがある」と回答しているが、20～39歳は34.3%であった。

特別料理を教わったり受け継いだことの有無(年齢別)

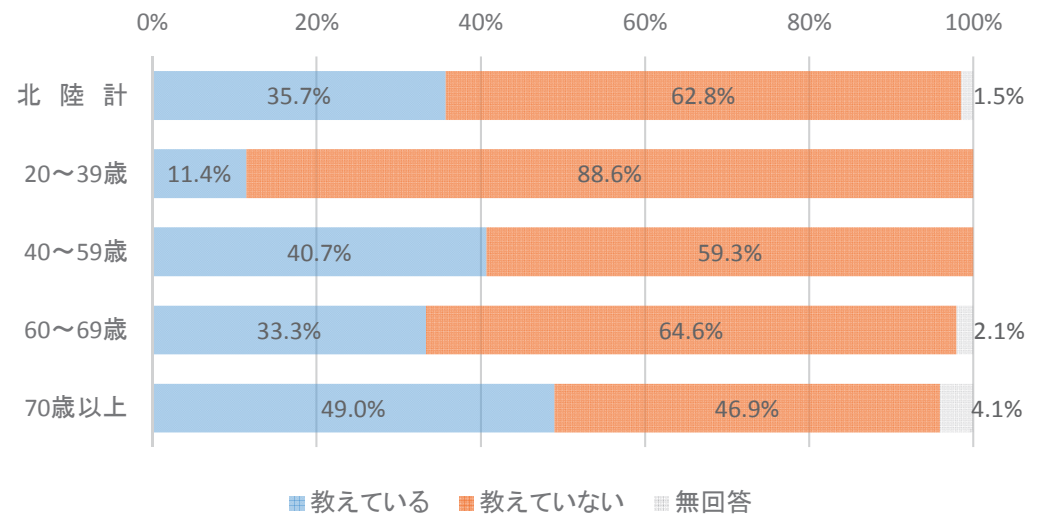


イ ハレの日の料理を誰かに伝承したことの有無

季節の行事などの特別料理を誰かに伝承しているかについては、「教えている」と回答した割合が35.7%であった。

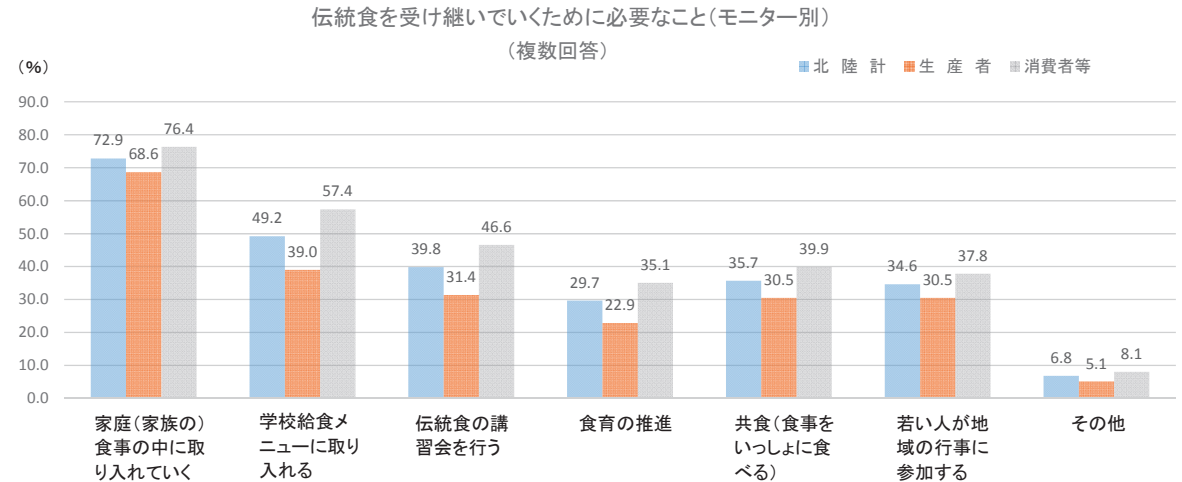
また、年齢別にみると70歳以上は49.0%、40～59歳は40.7%、60～69歳は33.3%、20～39歳は11.4%となった。

特別料理を誰かに伝承したことの有無(年齢別)



(3) 伝統食を受け継ぐため

伝統食を受け継いでいくために、どのようなことが必要かの質問に対して、「家庭（家族の）食事の中に取り入れていく」と回答した割合が72.9%と最も高く、次いで「学校給食メニューに取り入れる」が49.2%、「伝統食の講習会を行う」が39.8%、「共食（食事をいっしょに食べる）」が35.7%の順であった。

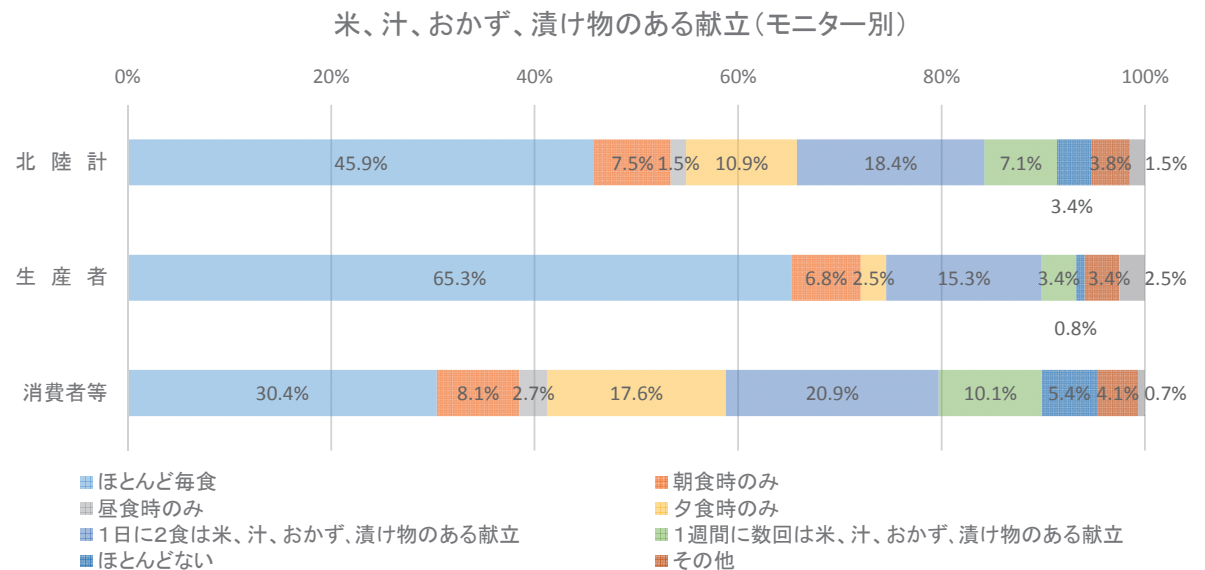


4 食事の実践度

(1) 献立

「和食文化」の実践度を知るために、「食べる側」の立場として、最近1か月に米、汁、おかず、漬け物のある献立を実施したかをモニター別にみると、生産者で「ほとんど毎食」と回答した割合は65.3%であるが、消費者等は30.4%であった。

「その他」を選んだ理由として、漬け物は食べないとの回答が多かった。

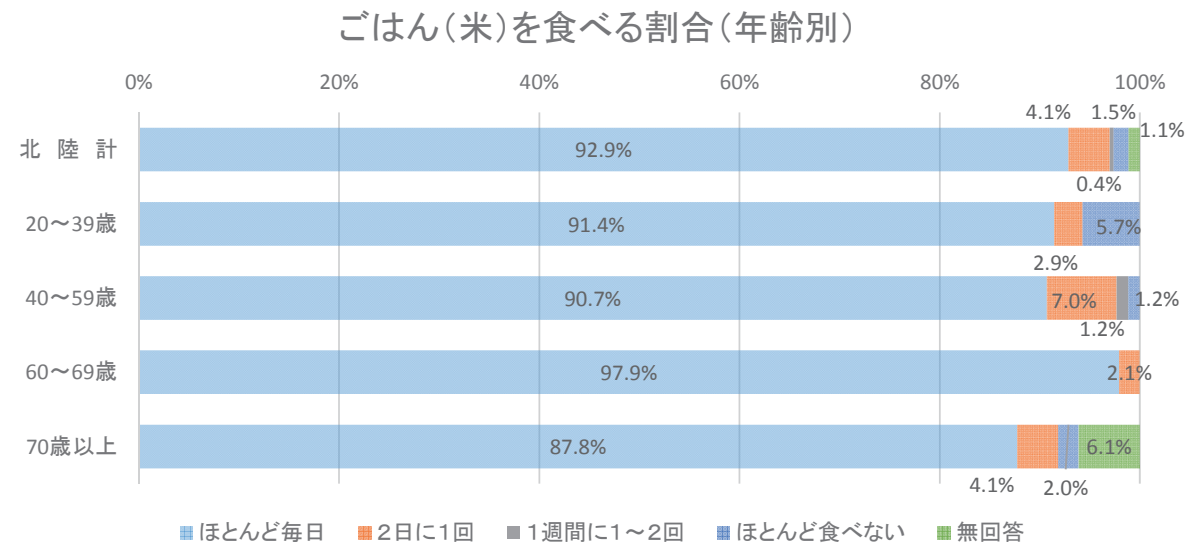


(2) ごはん(米)

食材として、「ほとんど毎日」ごはんを食べると回答した割合は、70歳以上を除いて90%以上であった。

70歳以上では「ほとんど毎日」食べると回答した割合は87.8%であった。

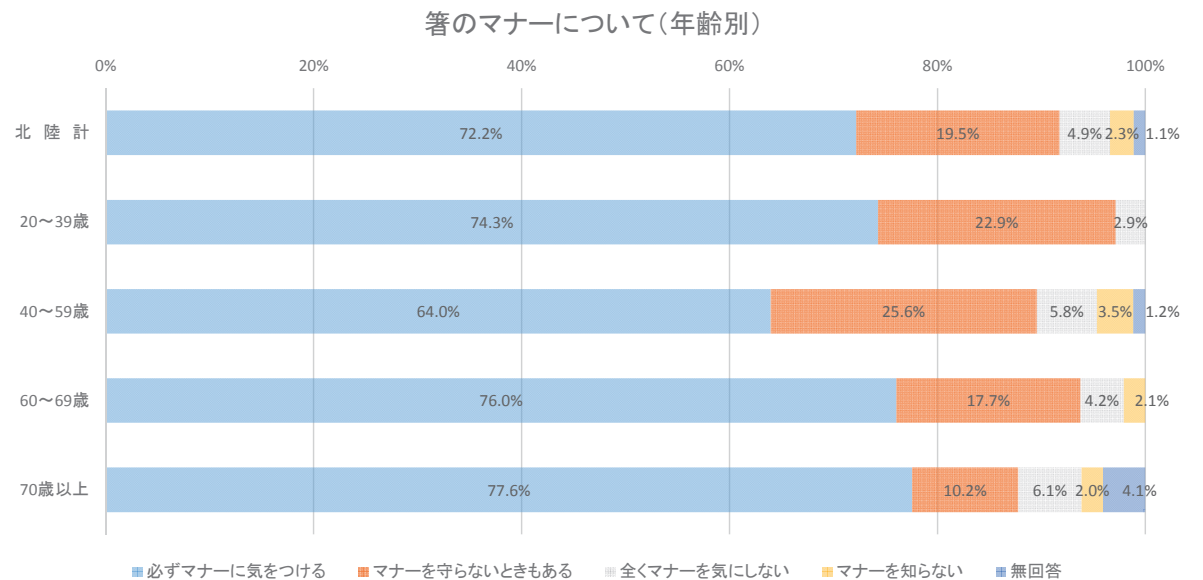
20~39歳で「ほとんど食べない」と回答した割合は5.7%であった。



(3) 箸のマナー

箸のマナーに気をつけていますか。の質問に対して、「必ずマナーに気をつける」と回答した割合は72.2%であった。また、「全くマナーを気にしない」と回答した割合は4.9%、「マナーを知らない」と回答した割合は2.3%であった。

年齢別にみると、「必ずマナーに気をつける」と回答した割合は、40~59歳は64.0%で他の年齢層と比べて最も低くなった。また、「全く気にしない」と回答した割合は、70歳以上が6.1%で最も高く、次いで40~59歳が5.8%であった。

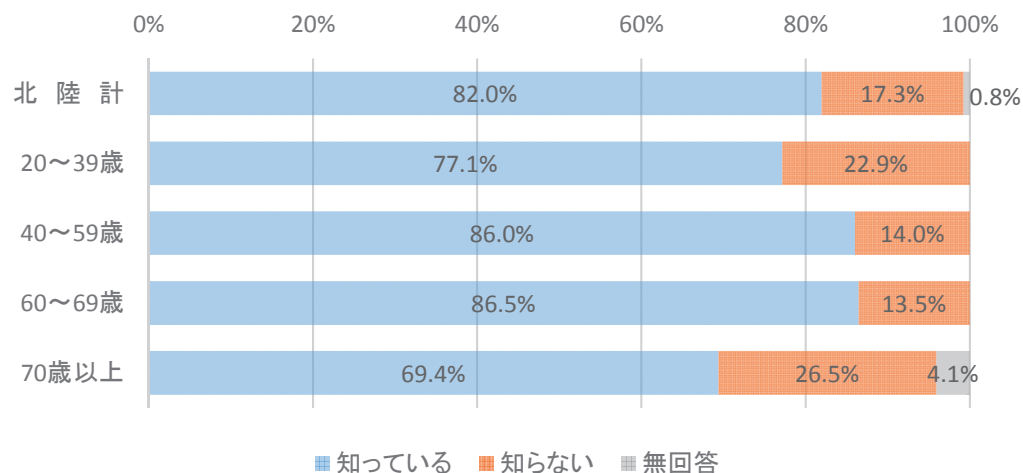


5 「和食文化」のユネスコ無形文化遺産登録の認知度

「和食文化」のユネスコ無形文化遺産登録の認知度について、「知っている」と回答した割合が82.0%であった。

年齢別で見ると、60～69歳が86.5%で最も高く、70歳以上が69.4%で最も低くなった。

「和食文化」のユネスコ無形文化遺産登録の認知度
(年齢別)



【利用上の注意】

本アンケートは、北陸農政局管内の農林水産情報交流ネットワーク事業のモニター（293人）を対象に実施したものであり、266人（生産者モニター118人、流通加工業者モニター67人、消費者モニター81人）から回答を得た結果である。また、モニター別集計では、流通加工業者モニターと消費者モニターを併せて消費者等とした。

《用語の解説》

- (1) 内食とは、自分あるいは家族が作ったものを食べること。
- (2) 中食とは、購入してきたものを食べること。
- (3) 外食とは、お店で食べること。